



藤沢晃治
Kohji Fujisawa

日本人が 英語を 話せない たった 3つの理由



ムダな遠回りは、これでおしまい！

2年半で**英検1級** **通訳ガイド** **TOEIC900点**等に合格！

独学のプロがたどり着いた

英語ペラペラ

までの

最短ロードマップ！

「学び直し」にも
最適！
社会人の

書き下ろし 三笠書房
知的生きかた文庫

はじめに

「たった3つを解消する」だけで英語は話せる！

私が本書を執筆しようと思った動機は3つあります。従来、日本人が英語を話せない最大の理由は、日本語と英語との「言語間距離」が大きいからだと思っていました。しかし、あるきっかけで、そうではないことに気づきました。これが1つ目の動機です。

日本と同様、多くのアジア諸国でも母国語と英語との言語間距離が大きいことは普通です。しかし、**なぜか日本人の英会話力の低さは突出しています**。そして、その原因に気づいたことが本書執筆の最大の動機でした。その原因は、本書の第3章で詳しく解説します。

2つ目の動機は、自分の失敗から得た教訓をみなさんにもお知らせしたかったからです。英検1級合格や通訳ガイド資格、TOEIC 900点突破などを目指して猛勉強していました。しかし、英検1級に合格した後でさえ、日本語のように流暢に英語を話すことができませんでした。

初級者から見れば、私は「英語ペラペラ」に見えていたようです。たしかに、かなり自由に話せはしたものの、時折、

言いよどむなど、苛立ちもありました。

そして、いろいろと考えた結果、私が目指してきたものは「**受験英語**」であって、「**英語ペラペラ**」ではなかったことに気づいたのです。

ここで言う「受験英語」とは、通常、意味する「入試英語」のことではありません。私が目指してきた英検1級やTOEICなど、資格試験のことです。

普通、「英検1級」などに合格すれば、世間では「英語ペラペラ」レベルだと解釈されます。しかし、資格試験合格のための学習法は、厳密な意味では、「英語ペラペラ」を目指すロードマップからは外れていたのです。

英検1級に合格するには、「NATO」などの略語の完全表記「NATO (North Atlantic Treaty Organization)」の知識などが求められます。しかし、こうした知識は「英語ペラペラ」を目指すうえでまったく不要な知識でした。実際、英検2級程度の方でも、帰国子女レベルで「英語ペラペラ」の方は大勢います。

つまり、私は「英語ペラペラ」を目指すための最短距離を通らず、ムダな遠回りをしていたのです。この遠回りこそが私の流暢さ不足の原因でした。

こうした反省から、最も効率のいい「**英語ペラペラまでの最短ロードマップ**」をやっと俯瞰^{ふかん}することができました。そ

の完全な最短ロードマップをみなさんに紹介したいと思ったことが2つ目の動機です。

3つ目の動機は、英会話をマスターしたい方々の多くが**世間にあふれる「甘い言葉」に騙されている**からです。

英会話指南書と言え、[これをやれば10日で英語ペラペラ]のようなものが大多数です。そんな甘い言葉に乗せられて、多くの日本人が効率の悪い努力を重ね、いつまでたっても英語を話せないままです。そのような多くの方々に目を覚ましていただきたいことが3つ目の動機です。

ですから、本書は「甘い言葉」ではなく、「**苦い良薬**」かもしれません。読み進めれば、みなさまには耳の痛い話も出てくるでしょう。

特に多くの英語学習者が騙されているのが、「**学校英語否定詐欺**」と私が呼んでいるものです。

みなさんも次のような主張をよく耳にしませんか？

なんとなく「そうだろうな〜」と思っていませんか？

- 学校英語は、英会話にはまったく役に立たない。
- 学校で習う英語は、現地では使われていない。
- 英語を話すのに文法なんて必要ない。

などなど。学校で何年も英語を勉強してきたはずなのに、外国人に道を尋ねられても片言の英語さえ出てきません。このような日本人の現状を考えれば、誰でもこう考えたくなるのは無理ありません。

じつは、もっともらしいこの考え方にこそ、落とし穴があるのです。

「文法を知ってたって話せないんだから、英会話に文法なんて不要だ!」、この発想は早とちりです。「将棋の駒の動かし方を知ってたって、強くなれないんだから、将棋の駒の動かし方を覚えることなんか不要だ!」というレベルの勘違いなのです。

こうした初歩的な勘違いを鵜呑みにする方々は意外に多いものです。こうした方々を私は学校英語の「**全面否定派**」と呼んでいます。

私自身も「日本人が英語を話せないのは、学校の英語教育のせいだ!」という考えには大いに賛成です。ただ、「学校英語は英会話には全然役立たない」という主張には賛成しません。「英会話をマスターするには、学校英語では不足部分がある」というのが私の主張だからです。

ですから、私は自身のことを学校英語の「**全面否定派**」ではなく、「**部分否定派**」と称しています。そして、私が感じる学校英語の「不足部分」こそが、本書が「**たった3つ**

の理由」として紹介する次の「3点の不足」です。

【1】音声語彙力の不足

【2】発信力の不足

【3】反射力の不足

ところで、学校英語の「**全面否定派**」と「**部分否定派**」とでは、何が違うのでしょうか？ 日本では、「**全面否定派**」が圧倒的な多数派で、私のような「**部分否定派**」はごく少数派です。だからこそ、日本では「英語を話せない人」が圧倒的な多数派なのです。なぜでしょうか？

「英語ペラペラ」になることを山の頂上まで登ることに^{たと}えてみましょう。頂上に到達できれば、めでたく「英語ペラペラ達成」です。

学校英語の「**全面否定派**」の方がこの山に登りたいとします。学校英語が教えた基礎ルールは、英会話には一切価値がないと考えている方々です。そんな方々が「英語ペラペラ達成」の山頂を目指す場合、スタート地点は、当然、地上の「登山道入口」辺りでしょう。

一方、日本では圧倒的な少数派である私のような「**部分否定派**」は、どうでしょう。仮に現時点での「英会話力がゼロ」の方々でも、登山を決意した時点で、**スタート地点は、**

不思議なことに山の七合目辺りなのです。なぜか、標高の残り3割程度を登るだけで、めでたく山頂に到達できるのです。

しかし、現在の英会話力がゼロなのに、山頂を目指ただけで、スタート地点が七合目だとの説明は、まったく理解しがたいでしょう。学校英語の「部分否定派」にとっての登山スタート地点がなぜ七合目なのか？ それについては、第1章で詳しく解説します。

以上述べたように、学校英語の「部分否定派」だった私は、英会話をより早くマスターできる確かな道順を知っています。実体験に基づいているからです。

私の学生時代の専攻は理工系ですし、海外留学、海外勤務の経験ありません。社会人になってからの仕事も、英語とはそれほど縁がないソフトウェア・エンジニアでした。そんな私でしたが、多忙な社会人になってから本格的な英語の勉強を開始しました。それでも**2年半だけの集中的独学で英検1級を取得後、TOEIC 900点、通訳ガイド国家資格なども次々に取る**ことができました。

こうした私の独学法を私は10年以上に渡り様々な企業様で講演させていただきました。日本経済新聞社様主催の日経ビジネススクールでも【確実にマスターできる「英語の学

び方】というタイトルで実施させていただき、おかげさまで人気セミナーとなりました。

長年、英語への挑戦を続けてきたにもかかわらず、目に見える成果が上がらないことは苛立たしいことです。こうした苛立ちは、多くの日本人が共有する国民的課題と言えるでしょう。

アジアの中でも日本人の英会話力がなぜ突出して低いのか、という謎を解明しているのが本書です。この謎を解く鍵を知ることで、「**英語ペラペラ**」までの作業工程の全貌が**見えてくる**はずです。

今までムダに遠回りしていたことも実感できるはずです。本書によって**今後の学習量を大幅に減らし、「たった3つの理由」の解消だけに専念**してください。

英語学習法をいろいろ模索するのも、そろそろ本書で終わりにしませんか？

本書をバイブルとして、今日から「英語ペラペラ」を目指してスタートを切ってください。そして、最短時間で「英語を話せる人」に生まれ変わってください。

藤沢 晃治

CONTENTS

はじめに

「たった3つを解消する」だけで英語は話せる! … 3

第1章 学校英語にはこの3点が足りない!

「学校英語は使えない」に騙されるな! … 18

日本語と英語との「言語間距離」はこんなに大きい … 19

「全面否定派」と「部分否定派」の違いとは? … 20

学校英語の知識は「隠し財産」だった! … 23

「全面否定派」は、ムダな遠回りを選びがち … 23

たった3つの不足を解消するだけ! … 24

「音声語彙力」って何? … 26

その語彙は「完全語彙」ですか? … 28

「スペルを覚える」で手一杯の学校英語 … 31

英会話には「音声語彙」が重要 … 32

英会話中に日本語を混ぜても通じません! … 34

学校英語で「発信力」が軽視されてきた理由 … 37

学校英語で「反射力」が身につかない理由 … 37

第2章 そもそも「英会話力」とは何か?

日本人の「読み書き力」は底辺レベルではない … 42

英語力の「成分分析」をしましょう … 43

今度は「英会話力」の成分分析をしましょう … 44

これが英会話力の「最終公式」 … 48

「陳述記憶」と「非陳述記憶」とは? … 52

学校英語の目標は日本人に英語を話させないこと? … 54

第3章 「音声語彙力」の不足を解消(発音編)

日本人が「英語を話せない」最大の原因 … 58

「音声スペル」も一緒に覚えましょう! … 62

英語には「表音文字」がない … 64

音声辞書内の登録単語数を増やそう … 66

音声スペルを覚える「一石二鳥」効果 … 67

単語を覚える労力は“ちょい増し”程度 … 71

最初に「フォニックス」を攻めるのが効率的! … 72

フォニックスのほんの一例を紹介します … 73

なぜ日本人の英会話力は、世界で突出して低いのか? … 76

日本人の悲劇は「母音の個数」にあった! … 80
「聞き取りの目盛り」は、何で決まる? … 81
そろそろ「カタカナ音での代用」を卒業しましょう … 82
「幼児の脳」と「大人の脳」との違い … 86
発音記号の「手抜き」習得法 … 88
子音の発音記号は覚える必要がない! … 89
それでも最低限覚えて欲しい子音の発音記号 … 91
母音の3点重視で「サバヤ式英語」を卒業! … 97
【a】「シュワ (schwa)」は母音の絶滅危惧種 … 104
軽視してもオーケーの発音記号! … 112
「音声辞書の登録数を増やす」確実な方法 … 116
「斜めに刺さった釘」を正しく打ち直しましょう … 118
受験英語で覚えた英単語も総チェック … 121
単語の「アクセント位置」も重要! … 125
「下地なしのリスニング」は効果なし … 125
リスニングを阻害する「音響洗脳」って何? … 127
「モノタロウ」が「モモタロウ」と聞こえる理由 … 128
脳は先入観で「実際の音」を捻じ曲げてしまう … 130
幼児は、なぜ語学の天才なのか? … 132
大人が「音響洗脳から抜け出す」方法 … 133
「聞こえなかった英語が、突然聞こえる喜び」 … 135

「藤沢式カタカナ英語」のすすめ … 136
【1】音声スペルに一番近いカタカナ音 … 138
【2】アクセント位置を守る … 139
【3】存在しない母音を発音しない … 141

第4章

「音声語彙力」の不足を解消(リズム編)

英会話は「リズム」が7割! … 146
まず、「英語リズムの癖」を知ろう … 147
英語と日本語では「発音の拍数」が違う … 150
単語のアクセントをもっと意識しよう … 155
英文のリズムは「ストレス」が大事! … 159
3拍の英文は「パン・パン・パン」のリズムで … 161
どの単語に「ストレスを置く」のか? … 163
ジャズの「表拍」「裏拍」で考えてみよう! … 166
長い単語も「ンパ・ンパ・ンパ」とリズムは一定 … 168
日本人の最大の弱点は「裏拍を聞き取れない」こと … 170
ネイティブの「手抜き発音」を知ろう! … 172
【1】連結 … 174 【2】弱形化 … 176 【3】消失 … 180
【4】同化 … 184 【5】フラッピング (flapping) … 185
英文内リズムが「勝手に身につく」練習法 … 188

第5章

「発信力」の不足を解消

「読み書きはなんとかなる……」は本当ですか? … 194

「読む」「書く」「聞く」「話す」を再分析すると … 195

なぜ日本人は「発信力」が弱いのか? … 199

スラスラ書ければ、ペラペラ話せる! … 200

「英語ペラペラ」になる3つのステップ … 204

「書く＝勉強」は誤解です! … 205

「書いてみる」「言ってみる」の発信確認が重要 … 206

それでも「書くがおすすめ」の2つの理由 … 208

「スラスラ書ける」を目指す最短の道 … 210

文法学習は「都度マスター」で十分 … 212

「オンライン英会話」の正しい使い方 … 214

ある日突然、「英語が口をつく」瞬間 … 219

「日本語ペラペラ」のイタリア人の場合 … 221

第6章

「反射力」の不足を解消

「反射力」とはいったい何か? … 226

「理屈脳」と「反射脳」の違い … 227

「学校英語だけでは英語を話せない」本当の理由 … 228

もう一度、「幼児の脳」「大人の脳」を復習 … 230

「大人の脳」にも優位点があった! … 233

どうしたら大人の優位点を活かせるか … 234

「あやふやな記憶」を「確かな記憶」にするために … 236

「高速発話力を鍛える」効果的方法! … 238

「ペラペラ話せない」のは量が足りないから … 239

「英語ペラペラ＝高速で話す」ではありません … 240

英語ペラペラまで、どのくらいの時間が必要? … 242

「所要時間」を試算してみましょう … 245

「記憶の定着率を高める」効果的な方法 … 246

■ 「反復」する … 247

「全体反復」より「部分反復」のほうが効果大 … 249

生涯記憶は「獣道」のようなもの … 250

■ 「復習」する … 251

初回学習のコツ … 252

【1】「アウトプット」 … 254 【2】多重感覚の動員 … 258

記憶が定着する「復習」のコツ … 259

復習とは「テスト」のこと … 261

■ 「文単語」で覚える … 262

会話中は「文法にとらわれない」ことも大事 … 266

「高速解釈力」の伸ばし方 … 269

リスニング力不足の原因を特定しましょう … 271

高速解釈力に特化した訓練方法 … 272

なぜ「聞く」は「読む」より難しいのか? … 273

多聴、速聴には「適度な負荷」が必要 … 276

「聞き取れた」という快感を味わおう! … 280

速聴の「速度の目安」とは? … 281

「多読、速読」もリスニング力には重要! … 282

「英語字幕」は理想の多読、速読教材 … 288

「音読」で高速発話力も同時に伸ばす … 291

参考文献 … 294

第1章

学校英語には

この3点が

足りない!